



414
A4260



今般外櫻田へ博覽場建設ニ相成邦内

産物ニ論諸製造品ニ至ニテ相備リ候處迄

追々精密諸説編成等可致場合有之既ニ文

部省中博物館ノ設有之候處其事業同一

ノ物ニテ俄ニ合并ハ難成次第モ有之候得共其統

轄一途ニ出不申候テハ事實不都合ノ慮々相起

リ候ニ付右博物館ハ勿論植物園書藉館共

何レハ歟一途統轄相成候様有之度博物

大正十一年四月
大隈侯爵邸

館之儀ハ文部省ニテ月々五拾圓ツ、定額相
定行有之植物園ハ七拾九圓ト相定從來保
全致候間若シ文部省ノ管轄ヲ離レ候トモ
前文金額ハ必ズ要用ト致事ニ有之候博物
館ハ西洋諸州ニ於テ種々体裁有之儀府先
英國龍同府アリテシ博物館ニ倣ヒ動植
金石等天造品及古器物其他人造物ハ勿
論古書画或ハ書籍等一館内ニ區分ヲ定

メテ陳列シ前文ノ諸部ハ一モ缺ク可カラザレ儀
ニテ一箇條相備リ候得共尚同國ケンシング
トシ博物館ノ體ヲモ取り廣ク人造ノ諸品ヲ
集羅シ館中更ニ大區ヲ設ケ手近ク生産
目的トモ成ル可キ物産製造品物陶器漆
器類及糸布織物ノ類并此等ニ要スル諸機
械農具等ニ至ルニテ漸次蒐集シテ盛大ニ至
ラシムルノ大基礎ヲ定メ尚貴賤ノ別ナク篤志

ノ者社ヲ結ビ共ニ戮カシテ永世連続セシメ國
ト共ニ全カラシムルヲ要シ會盟ノ法則等ハ更ニ
相詢ヘ財本ヲ積テ異日盛大ニ至ルノ法ヲ設ク
ベシ此法確定ニ至リテハ更ニ官金ヲ仰グヲ要セ
ズ大ニシテ邦内富饒ノ基ヲ立テ小ニシテハ各人
知識ヲ開導スル端ヲ開クベシ

博物館ノ土地廣大ニシテ樹木繁茂シ火
災ノ及バサル所ヲ撰バザレバ適當セサル故ニ方

今ノ場所良地トハナシ難シ然レトモ一舉ニテ
目的ヲ達スルコト能ハザレバ漸ク以テ機會ノ至
ルヲ期スベシ暫ク方今行フノ法ヲ設ルコト左ノ
如シ

速成ハ凡ソ世人ノ欲スル處ナレトモ晚成ノ期セ
ザレバ盛大ニ至リ難シ或ハ事弊害ヲ醸ス恐
レアレバ先ヅ主宰一名ヲ定メ各部ヲ統督セシ
メ專ラ館内ノ事務ヲ司ラシムベシ諸官員又

ハ非役ノ別ナク篤志者ヲ撰ミ負ヲ限ラズ館
ノ議ニ関ラシメ式日ヲ定メ集會ニ事ヲ交ス可
シ若シクハ議案ヲ迴達シ便寫ニ處スルモ可ナリ
一 館ノ費用預メ算シ難シ故ニ當分定額百
七拾圓ヲ以テ暫ク試ムベシ前文ニ述ブル如ク
會盟ノ規則等全備ノ上更ニ會計ノ方法
相定メ養殖ノ路相開ケバ永世不拔ノ基礎
ヲ立ツベシ

一 聖上自ラ資金ヲ仰損シ一度館ニ若干
ノ高麗收メアラバ下民亦 聖旨ニ從寄
附スル者多カルベシ此等ノ集金ヲ基礎性
ナル者預ケ置キ月々至當ノ利金ヲ収レバ
歲月ヲ積ミ官金ヲ仰ガサルノ期ニ至ヘシ
一 平常館ノ事務ヲ取ル者官ヨリ此ヲ兼シ
俸モ亦官是ヲ給スベシ
一 英國アリチシ博物館ノ如ク兵ヲ以テ是ヲ護

スベシ

一館ニ屬スルノ園ヲ開キ龍同府下ニ設クル處
ノパークニ比シ衆人ノ遊歩ヲ許スベシ

一園ニ遊ブ者ハ各壹錢ヲ收シムベシ

一館内展覽ヲ請フ者ハ鑑札ヲ求ニメ官ノ
法則ニ從ハシム

但鑑札ヲ受ル者ハ定價ニ從ヒ金ヲ收シム

一右兩件ヨリ收ムル金額ハ皆積金ニ加入スベシ

一金ヲ寄附スルノ人ハ貴賤ノ別ナク金ノ多
少亦制限アルベカラズ

一海外諸州ニ於テ博物館ハ概子都人士
社ヲ結ヒ是保全スルナリ今新ニ館ヲ開
クニ當リ官ヨリ之ヲ創立シ官ヨリ之ヲ
扶クルコトヲ要スレドモ歸スル處ハ唯上下
カヲ合ヤ廣ク社ヲ結ビ偕ニ樂ニ耳目ノ
感覺ヲサワヤカニ日々新ニ智見ヲ磨ク

文部省
ニ在リ然レドモ今シテ嚴ニ民心ヲ束縛ス
可ラサルガ故社ヲ結ブノ法ハ前文ニ云如ク
別ニ細目ヲ記載スベシ

一會盟同社ノ者ヘハ寄附ノ金高ニ依リ做
令ハ金拾圓ヲ寄附スル者ハ毎月五ノ来
觀ヲ許スノ権ヲ有セシム此金高ニ依リ来
觀ヲ許ス某ノ月日ヲ記セシ鑑札ヲ月末
會盟社中ヘ分配スベシ